

## 令和2年度学校評価について

本年度の重点目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上</li> <li>2 自立と社会参加を促す教育活動の推進</li> <li>3 「笑顔」のある安心・安全な学校づくり</li> <li>4 関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進</li> <li>5 センター的機能の充実</li> </ol>		
項目	重点目標	具体的方策		評価結果と課題
小学部	児童の病気や障害の状態及び学習の進度に応じて学習の目標や内容を設定し、児童が自信をもち、達成感を味わいながら、笑顔で学校生活を送ることができるようにします。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童・保護者及び医療関係者等との相談をもとに、児童の学習の進度や特性を把握します。</li> <li>2 個々の実態に応じた学習目標・内容を設定し、分かりやすく効果的な学習方法を工夫します。</li> <li>3 学習の目標を明確にし、児童とともに学習の成果を振り返ることで、自己の成長が実感できるようにし、児童が主体的に学習に取り組めるように支援します。</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今年度は休校期間があったため、前籍校や保護者との連携・相談がより必要とされました。連携により得た情報や学習のねらいを踏まえた学習内容を設定し、個々の児童の実態に応じてきめ細やかに支援を行いました。</li> <li>2 道徳や生活、外国語、特別活動などで、本校とベッドサイド学級や施設内学級を同時双方向型通信でつないだ授業を行いました。継続して行った部集会では、高学年児童が活動内容を考えたり、積極的に司会に取り組んだりするなど、当初は見られなかった主体的な姿が見られるようになってきました。今後も継続して取り組みたいと考えています。</li> </ol>
中学部	基礎的・基本的な学力の習得を確実に行うとともに、集団で活動する中で、自らの課題に気付き、個性の伸長を図り、他者とよりよい人間関係を築く力を養います。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の学習状況を適切に把握し、学習集団を工夫するなど、きめ細やかな指導を行います。</li> <li>2 ICT機器を活用し、校内教育、BS学級、施設内教育学級で同時双方向での授業を行い、集団で学び合う環境づくりをします。</li> <li>3 集団活動の中に意見を交わす課題を設け、対話的、協同的な活動を通じた合意形成の経験を多くの生徒ができるよう支援します。</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の学習や生活状況を把握し、課題の提示や個別指導など、状況に応じた支援をすることで、基礎的・基本的学力の定着や学習意欲を高めることができました。</li> <li>2 ICT機器を活用した同時双方向型通信の授業を積極的に取り入れ、集団での対話的な取組を継続的に実施しました。授業担当者で授業展開や内容など検討し、職員間で共通理解を図り、生徒の実態に応じた対応につなげることができました。</li> </ol>
高等部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各教育課程の指導内容及び指導方法について検証し、改善を進めます。</li> <li>2 自己実現を目指し、集団の一員として生きる力を身に付けます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 登校できない生徒に対し、同時双方向型通信を活用して、健康状況等の把握を行う。</li> <li>2 生徒の達成感や自己肯定感の向上につなげるため、個々の学習状況に応じた分かりやすい授業を行います。</li> <li>3 生徒一人一人の実態を的確に把握し、高等部職員全体で取り組むべき課題という共通認識をもち、授業力の向上及び適切な指導が実施できるよう、研修に努めます。</li> <li>4 挨拶や言葉遣い、他の生徒への思いやりなど、人との関わり方を学べるように支援・指導します。</li> <li>5 集団での活動場面において、生徒の実態に応じた役割分担を明確にし、他の生徒との協働により、達成感や成就感を味わえるように指導します。</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒個々の状況に応じて、部会や部研修の機会を利用して職員で情報を共有し、生徒に寄り添った支援を検討し、合意形成を図りながら支援及び指導をしました。支援内容を継続して検討する必要があるケースもありますが、概ね生徒にとってよりよい学習環境を整えることができました。</li> <li>2 新型コロナウイルス感染防止のため、同時双方向型通信を利用し、授業のライブ配信や部集会、近隣の高等学校との交流などを実施することができました。</li> <li>3 新型コロナウイルス感染防止の観点から行事等は少なかったですが、文化祭などの実施できた活動では、それぞれの生徒が役割を担い、達成感や充実感を味わうことができました。</li> </ol>
施設内教育	名大藤田中京 児童生徒が安心して学べるように、保護者及び医療機関等との連携を保ち、個に応じた指導の工夫と充実に努めます。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保護者、病院、前籍校等と協力し合って学習環境を整え、児童生徒の実態に合わせた学習保障に努めます。</li> <li>2 児童生徒の進路の参考とするため、病棟に入院している高校生の学習状況について情報を収集します。</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 感染症対策として、透明アクリル板やフェイスシールドの使用や分散登校などで、授業を確保することができました。また、好中球低下時等のベッドサイド授業にも、保護者や本人の要望に応じられるように柔軟に対応することができました。</li> <li>2 各施設に入院している高校生への各高校の対応を調べました。来年度以降の進路指導に役立てていくとともに、継続して調査していきます。</li> </ol>
訪問教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒の一人一人の実態に応じた授業を実施します。</li> <li>2 病院等の関係機関との連携を密にし、児童生徒が安心して学べる環境作りに努めます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒の興味・関心や学習の状況、病状を的確に把握して授業を実施します。</li> <li>2 担当者間で、児童生徒の情報を共有し、児童生徒にあった目標・内容・方法を検討し支援をします。</li> <li>3 電話や病棟との連絡ノート等を活用し、病院等の関係機関との情報交換を積極的に行い、児童生徒にとって安心して活動できる環境作りに努めます。</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業内容や方法を繰り返し検討して、児童生徒の実態に応じた授業改善を進めることができました。</li> <li>2 担当者間で児童生徒の情報交換を密に行い、共通理解を図ることで、児童生徒の状況の変化に合わせた対応をすることができました。</li> <li>3 一部ではあるが、病院等の関係者と定期的に情報交換のできる仕組みを構築できたことで、病棟との連携を図ることができました。しかしながら、連絡の行き違い等まだ不十分な面もあるので、より一層の病棟の関係者等との連携を進めていくことが課題です。</li> </ol>
総務部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 魅力ある教育活動の情報発信に努めます。</li> <li>2 保護者同士や学校とのつながりを感じられるPTA活動を進めます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校、施設内、訪問教育と連携を図り、学校だより・校内掲示等を利用して、活動や取組について具体的に発信していきます。</li> <li>2 保護者と連携し、社会の状況にも対応しながらPTA活動や研修会の内容を検討していきます。</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校だより・校内掲示では、本校、施設内教育、訪問教育と連携を図り、情報発信に努めました。特に校内掲示では、同時双方向型通信での授業や文化祭に向けてのビデオ作り、作業学習の様子など、今年度の学校生活が伝わる内容を取り上げ、掲示等を作成しました。</li> <li>2 PTA研修会は、web会議ツール「Zoom」を用いたリモートでの参加も設定して行いました。リモートで参加する方が多く、現在の新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からも、参加しやすい方法であったと好評でした。</li> </ol>
教務部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 2学期制の実施に伴い、授業、儀式等を本校児童生徒の実態に応じた内容で実施します。</li> <li>2 新学習指導要領に沿った、主体的対話的で深い学びを目指し、指導力の向上を図ります。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業計画の見直しを行い、評価の方法や、評価の結果を授業へどう生かすかを担当者で話し合います。</li> <li>2 始業式終業式の儀式的回数を減らし、授業時間を確保し、内容の見直しを行います。</li> <li>3 各部、各教科における授業改善を心がけ、指導力向上のための研修機会を設けます。</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校休業中の未学習部分を補うために、年間指導計画の見直しを行いました。教育内容の精選やオンデマンド教材の活用を進めました。</li> <li>2 2学期制に伴い儀式的回数を減らすだけでなく、休業中の課題や考査の時期などを見直し本校児童生徒の実態にあった改善を行いました。</li> <li>3 新学習指導要領に沿った指導や評価について研修を実施しましたさらに、次年度も研修の機会を設定していきます。</li> </ol>
自立活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>3 児童生徒が自己の自立について考えると同時に、自立を目指す上で必要な力は何かを教師とともに考え、主体的にその力を身に付けることができるよう支援します。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4 児童生徒が自己の心身の状態を踏まえ、自己理解を進めたり、自己管理の力がついたりするような活動内容の工夫を行います。</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>4 ワークシートや自己理解を深めるための「自分メーター」シート等を活用することによって、児童生徒が自己を見つめ、主体的に活動に取り組む姿が見られました。今後は、より、個に応じたねらいで活動を計画実施することが課題です。</li> <li>5 児童生徒、保護者及び教師が、自立活動についての理解を深めることができるよう、「自立活動便り」の内容を見直しました。今後も、自立活動の基本的理解を深めることができるよう、発信方法を工夫していきます。</li> </ol>

生徒指導部	児童生徒の防災に対する意識を高めるとともに、安全・安心に学校生活を送ることができるような学校づくりに努めます。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 避難訓練や定期的にシェイクアウト訓練を実施し、児童生徒の防災への意識を高めていきます。</li> <li>2 不審者対応訓練を実施し、緊急対応マニュアルの見直しをします。</li> <li>3 毎週、各部会で児童生徒の情報交換を行うとともに、年2回、児童生徒を対象とした「心のアンケート」を実施します。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 消火器の使い方や防災ヘルメットの装着練習など、避難訓練での防災学習を工夫することで、児童生徒が校内にある消火器を自主的に確認するなど、防災への意識が高まりました。また、シェイクアウト訓練を2回実施し、地震が起こったときには、「姿勢を低く、頭を守り、じっとする」という、地震が起こった際の安全確保行動を理解することができました。</li> <li>2 コロナウイルス感染症拡大予防のため、警察署員を講師に招いて行う訓練は中止しました。緊急対応マニュアルは、継続的に見直しを行いました。</li> <li>3 各部会で児童生徒の情報交換を行ったり、「心のアンケート」の結果を職員間で情報共有したりすることで、いじめの防止、早期発見に学校全体で対応しました。</li> </ol>
保健体育部	教育環境の整備や安全指導を充実させ、児童生徒の健康管理を適正にし、安全で安定した学習ができるような環境作りと保健指導の充実に努めます	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒の健康状態の把握や事故防止に努め、児童生徒個々に応じた緊急時の対策等の情報を職員に周知徹底し、共有しながら、より安心で安全な教育環境を整えます。</li> <li>2 医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係する機関との連携を深める中で、児童生徒や教職員が、お互いに安心して学校生活を送ることができるように支援します。</li> <li>3 日常の健康と安全に対する意識を高め、家庭や病棟と連携を取り、感染症対策や食習慣の重要性を周知していきます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 緊急対応マニュアルを職員間で周知徹底し、個別な対応が必要な児童生徒には、個別に緊急対応マニュアルを作成しました。そのマニュアルを教室や使用頻度の高い特別教室で閲覧できるようにし、緊急時、迅速に対応することができるよう情報を共有することができました。</li> <li>2 医療的ケア、食物アレルギーについては、各部会や委員会等で、安全を最優先した取組となるよう検討し、その情報を全校体制で共有しました。</li> <li>3 感染症対策として、登下校時の検温の実施及び給食前の健康観察、手洗いの励行及びマスクの着用の依頼、各教室への消毒液の配布し、職員による消毒拭き取り作業を実施しました。また、対人距離間隔に努め、対面に座ることをなくした給食時の座席配置、体調不良者が休養できる部屋の確保等、感染症対応マニュアルを作成し、管理職や他の分掌と連携を図りながら取り組みました。</li> </ol>
進路指導部	生徒の実態と生徒・保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け進路指導の充実に努めます。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施します。生徒・保護者のニーズを把握しICTを活用した情報を提供することで、進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。</li> <li>2 地域や関係機関との連携を図り、見学、体験、実習等の活動や、多様な進学・就労への個別支援が充実するよう努めます。</li> <li>3 希望する進路先・居住地関係機関に対して生徒の実態について情報提供することで生徒への理解を深めていただくよう努めます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒が進路選択をするための情報をタブレットパソコンで作成し、本校の生徒だけでなく施設や訪問の生徒にも同じ情報を提供できるよう努めました。また、必要に応じて保護者への進路懇談を設定し、進路決定の支援に役立てました。</li> <li>2 高校見学等の最新情報の提供や居住地の相談支援センターと連携に努め、個別支援の充実に努めました。</li> <li>3 志望校に対し事前相談を行い、情報共有や実態に合わせた受検上の配慮依頼をしました。また、企業とオンラインでの施設見学、講義を依頼し、生徒と直接会話する機会を設定し、生徒理解を深めていただくだけでなく生徒の学びを深める機会としました。</li> </ol>
教育支援部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒の実態や一人一人の教育的ニーズに応じ、きめ細やかな支援を行うため、教職員研修の充実を図ります。</li> <li>2 各関係機関との情報の共有化、連携の充実に努め、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に努めます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各教育形態で行われるカンファレンスについて、その意義の確認や定義を見直し、カンファレンスの在り方について検討を進めることで、児童生徒の教育的ニーズや教育課題に対応する方策を共有し、教職員の資質の向上を図ります。</li> <li>2 医療、教育、地域との「連携の流れ」について見直しや確認を行い、スムーズな連携を一層推進するとともに、次年度開催予定のセミナーや研修会の企画を行います。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 カンファレンス等の見直しについては、教育形態ごと連携の在り方(種類、目的、主な参加者等)について見直し、現状にあった内容へと変更しました。併せて、連携の在り方の図表の整理、カンファレンスの記録用紙の書式変更を行いました。</li> <li>2 新型コロナウイルスの感染拡大により、夏の研修会が中止となったため、センター的機能の一環としてホームページにWeb相談コーナーを1月末まで開設しました。地域の小学校などから、病弱児教育に関する質問を受け、メールや電話で回答し、センター的機能の推進に努めました。</li> </ol>
教育情報部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒がICT機器を活用できる環境を整えます。</li> <li>2 職員の業務の効率化や職務のスリム化により、授業準備等の児童生徒と向き合う時間の充実に努めます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 コンピュータ室のパソコンやタブレット端末等の利用環境を児童生徒の実態に応じて見直し、すべての教室でICT機器を効率的に活用できるように環境整備を進めます。</li> <li>2 コンテンツの拡充及び校内の研修により指導力の向上を目指します。</li> <li>3 ネットワークやグループウェア(情報共有システム)の活用により職員間の効率的な情報共有を進めます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 不安定な校内ネットワークを解消すべく、三菱みらい育成財団の研究予算を活用し、ネットワークの強化、安定化を図りました。これにより各教室や特別教室、ベッドサイド学級で安定してタブレット端末が使用できるようになり、NHK for Schoolなどの映像コンテンツを利用した分かりやすい授業や調べ学習が簡単にできるようになりました。その結果これまで以上にタブレット端末の利用・活用が促進されることとなりました。</li> <li>2 オンライン授業や文化祭の動画配信など学校と家庭をつなぐ役割を担いました。GIGAスクール構想の実現に向けて、校内のネットワークの整理やICT機器の調整等を行い、努力しました。</li> </ol>
総合評価		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上ができたか 新型コロナウイルスによる休校期間においても、ICT機器を活用した同時双方向型通信を早い時期から取り入れ、児童生徒の学習状況や生活状況を把握し、状況に応じた支援ができた。その後も、児童生徒個々の状況に合わせて授業のライブ配信による学習を実現するなど、できる限りでの教育補償を行った。その中で、新しい学習の形のヒントもたくさん得ることができました。</li> <li>2 自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか コロナ禍にあっても、同時双方向型通信を利用して交流校と積極的に交流を継続したり、校外学習や職場見学等の行事においてもビデオ配信したり、現地に赴かなくても体験できることを積極的に取り入れ、学習の機会を確保することができました。</li> <li>3 「笑顔」のある安全・安心な学校づくりができたか 登下校時の検温や細やかな健康観察、手洗いの励行及びマスクの着用、職員による消毒拭き取り作業、安全な給食環境など、保健体育部を中心に職員が一丸となって感染症対策を徹底し、安全・安心な環境の確保に努めました。</li> <li>4 関係機関や保護者等との連携による教育活動が推進できたか 新型コロナ感染症対策を始め、できる限りの情報を共有し、学校と保護者、各病院と連携をした教育活動の展開に努めました。訪問教育では、病院等の関係者と定期的に情報交換のできる仕組みを構築できたことで、病棟との連携の強化を図ることができました。</li> <li>5 センター的機能の充実に努めたか 研修会は開催できませんでしたが、ホームページにWeb相談コーナーを開設し、地域の小学校などから、病弱児教育に関する質問を受け、メールや電話で回答することで、センター的機能の推進に努めました。</li> <li>6 仕事の効率化、勤務時間の適正化に努め、教職員のメンタルヘルスを保持することができたか 予期せぬコロナ対応での休校措置からスタートし、その間の課題や同時双方向型通信での授業配信。そして再開してからも連続した感染症対策など、普段の仕事の多忙さに加えてさらなる負担がすべての職員に降りかかってしまいました。その中でも学校のスローガンどおり、笑顔あふれる学校を目指し、全職員一丸となって危機を乗り越えるべく、前向きな意識だけは絶やしませんでした。無理なく行事を進められるよう大幅な見直しをしたり、簡略化できるところは大胆に縮小したりして、仕事の効率化を図りました。また、在宅勤務や、時差通勤などを積極的に散り入れ、感染症対策にも力を尽くしました。退勤時間の適正化を呼びかけ、大幅な勤務時間の増加には至りませんでした。</li> </ol>	